

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 29 日現在

機関番号：42674

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2011～2015

課題番号：23700874

研究課題名(和文)日本のファッションの海外発信性に関する研究 定点観測による実証研究を基にして

研究課題名(英文)Research on Japanese fashion and its ability to disseminate overseas - Based on empirical studies through fixed point observation -

研究代表者

渡辺 明日香(WATANABE, Asuka)

共立女子短期大学・生活科学科・教授

研究者番号：60352746

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,400,000円

研究成果の概要(和文)：ストリートファッションの調査・分析を基軸とし、日本のファッションの特異性と海外発信性について検証を行った。定点観測の写真資料の集積、写真の整理およびデジタルデータ化、日本の第二次大戦後から現在に至るストリートファッションの史的研究を遂行することで、ファッションの概念変化とメカニズムの変容を究明した。これらの結果、ストリートファッションがクールジャパンの対象となった理由は、従来のファッション変容に関わる文脈やファッション・システムとの無関連性にあることが明らかとなった。

研究成果の概要(英文)：Using research and analysis on street fashion as standard criteria, I conducted an observation on the singularity of Japanese fashion and its ability to disseminate overseas. Through an accumulation of photographic materials taken from fixed points of observation, and by digitizing and organizing these photos into data, while conducting a historical study of street fashion in Japan spanning a period since the end of World War II up to the present day, I investigated the conceptual transitions of fashion and the transformations in their mechanisms. As a result, it was clear that the reason that street fashion had become an object of medium for Cool Japan was because it was unrelated with the context or to the fashion systems associated with standard transformations in fashion.

研究分野：現代ファッション

キーワード：ストリートファッション クールジャパン サブカルチャー 都市 ファッション

1. 研究開始当初の背景

マンガやアニメ、ゲーム、映画をはじめとした日本のポップ・カルチャーは「クール」と評価され、海外で高い人気を誇っている。特に、2000年代に入り、2005年2月に開催されたヴェネチア・ビエンナーレ第9回国際建築展での「おたく：人格＝空間＝都市」展覧会を筆頭に、2005年3月には、ニューヨークのジャパンソサエティー美術館で「リトルボーイ」展が開催された。さらに、日本のファッションに関して、2010年には「Japan Fashion Now」(ニューヨーク工科大学)、「Future Beauty: 30 years of Japanese Fashion」(ロンドン・バービカンアートギャラリーおよび、ミュンヘンのハウス・デア・クンスト)という二つの展覧会が続いて開催されるなど、日本のファッションへの関心の高まりがみられた。

こうした背景から、日本政府もマンガやアニメ、映画、ゲームなどのコンテンツは、国際的に競争力を持ち、将来性も期待できるとして、2003年に知的財産戦略本部が設置され、2010年には経済産業省製造産業局に「クールジャパン室」が開室され、日本の戦略産業分野である文化産業(＝クリエイティブ産業：デザイン、アニメ、ファッション、映画など)の海外進出促進、国内外への発信や人材育成等の政府横断的施策が推進され、2010年10月には東京デザイナーズウィークにて、「クールジャパン・カンファレンス」が開催された。他方、東工大世界文明センターでの「クール・ジャパノロジーの可能性」国際シンポジウムも2010年3月に開催され、2000年代の半ばから2010年代にかけて、日本の文化をグローバルな視点から考察する動きが顕著にみられるようになった。

日本のファッションの海外での受容も例外ではない。1990年代の後半から、日本のファッションブランドやストリートファッションに対する評価が高まっており、日本のファッションを見たり、ショッピングを楽しむ目的で渡航する観光客も増加傾向にある。例えば、2007年にパリで開催された「ジャパン・エキスポ」では、ゴスロリなどの東京発ファッションを楽しむ女性たちが国外からも多く訪れ、毎年名古屋で開催される「世界コスプレサミット」では、アニメのキャラクターに扮したコスプレファンが海外から来日していることから高い関心が伺える。

いわゆる伝統的な日本文化が海外で評価されるのとは異なる、現代の日本人のファッションやデザイン性が高く評価されたのは、1970年代に入ってからである。三宅一生、山本耀司、川久保玲といった日本人デザイナーが、西洋服の既成概念を覆す作品を提案したことで与えた影響においては、『ジャポニスム・イン・ファッション』(深井：1994)、『最後のモード』(鷲田：1993)、『モードの迷宮』(鷲田：1989)、『モードの帝国』(山田：2006)など、様々な視点で研究や評論がなされ、多

数の著作・論文がまとめられている。

ただし、ここで扱われている題材のほとんどは、主に1970年～80年代にパリ・プレタポルテに与えた日本人デザイナーの影響の大きさや、その造形の特徴などが主眼となっており、1990年代以降、現在の日本人デザイナー、ないしは日本のファッションが海外に与える評価について触れられたものはごくわずかである。

2. 研究の目的

そこで本研究では、日本のファッションが海外に影響を与えたケースを文献調査によりふまえた上で、1990年代以降、現在の日本のファッションがなぜ海外から評価されていて、関心を寄せる対象者が誰なのか、その実態について究明することを目的とした。

こうした観点を明らかにするためには、文献研究と実証的な調査の双方から検討を行うことが必要であり、現在の日本のファッションが関心を寄せられる理由を探り、さらに海外への発信可能性について検証することを主眼とした。

申請者は、1994年から現在まで、東京都内の主な繁華街である原宿・渋谷・銀座・代官山で街頭のファッションの観察を行い、写真撮影による観測調査を実施してきた。この調査に加えて、1970年代から2016年までの40年間に及ぶストリートファッション画像(約15万点)を関連団体、個人の寄贈等により蓄積、分析し、これらの研究成果として、トレンドの周期性、服装色の変遷(渡辺・城・児玉：2007)、ファッションの地域差(渡辺・城：2006)、街とファッションの相関性(渡辺・城：2001)等に公表してきた。

以上の研究を重ねるうちに、日本のストリートファッションの特色は、イギリスやアメリカの1950年代、1960年代、1970年代を中心とする、ユースカルチャーにみられた、体制や秩序に抵抗する表意としてのファッションとは異なり、社会背景や歴史的な文脈とは無関係に享受されるものに転換しているのではないかという問題関心を抱くようになった。

3. 研究の方法

上述の視点にたつて、現代ファッションの変容について、次の実証研究を行った。1つは、これまでの定点観測を継続し、ストリートファッションの変化を調べるとともに、所蔵写真のデジタルデータ化と分析を行うことであり、2つめには、日本のストリートファッションが、国内外からどのように受容されているのか、文献資料、聞き取り調査、コスプレサミット、東京ガールズコレクション等のイベントでの調査を通して実態を把握することとした。

(1) 定点観測調査および撮影の実施

原宿・渋谷・銀座・代官山の4地点の定点観測および、被写体の撮影(1地点あたり150

枚程度)の調査・研究を遂行した。研究期間中(2011年7月~2016年3月)に実施した調査回数は、57ヶ月分、228回にのぼった。

(2) 1970年代~2010年代までの写真の整理・スキャナ入写真整理

1970年~2016年までの蓄積されたストリートファッションの画像約15万点を整理し、各年代のファッションを反映していると判断しうる写真約4,000点を抽出、デジタルデータ化を行った。得られたデータは、ストリートファッションの変遷を詳細に分析するための対象として活用し、一部は、ストリートファッションのデータベース作成のための検討資料として、あるいは、執筆した論文や書籍の図版に使用した。

(3) 日本のファッションに関する文献研究およびサブカルチャー研究の再検討

国内の研究者が日本のファッションを論じたものと、海外の研究者が日本のファッションを論じたものと、両者を比較検討しながら、その内容を確認、要点整理を行った。代表的な文献として、「中心化する周縁--ファッション展におけるジャパニーズ・ファッション」(石塚:2010)、「西洋から見た1980年代におけるジャパニーズ・ファッション」(Kondo:2010)などを参照した。さらに、サブカルチャーとしてのストリートファッションを言及した文献研究としては、『サブカルチャー』(Hebdige:1979)、『暴走族のエスノグラフィー』(佐藤:1984)など、ファッション現象からサブ-メイン構造に言及したものを参照し、併せて、サブカルチャーという視点の今日的意味を吟味した論考として『サブカルチャー社会学』(仲川秀樹:2002)等により、サブカルチャーに関する議論を整理した。

(4) ファッション・イベント等の現地調査

東京ガールズコレクション、名古屋コスプレサミット等のファッション・イベントの現地調査を行ない、実態の把握を行う予定であったが、研究期間中に産休・育休の取得をしたため、出張を伴う現地での実地調査がほとんど実施できなかった。しかしながら、当該ホームページでの情報入手、SNS等を使って、参加者のコメントのキャッチアップ等を行い、状況把握に務めた。

4. 研究成果

本研究の成果として一番に掲げるべきことは、ファッション概念そのものが変容し、従来のファッションに関わる文脈とは無関連に、ファッションが形成されていることが言及できた点である。

以下に、論文や書籍で公表した研究結果を列挙する。

(1) ファッションの概念変化に関する考察

戦後60年間におけるファッションの概念変化と、そのメカニズムの変容を究明した。

ファッションに関する先行研究の概説と検討

ファッションの定義、ファッションの理論的説明、流行論の先行研究と検討を行い、流行の成立と伝播に関する既存研究を整理した結果、背景となる時代、政治や社会、文化や思想の変化により、流行の定義や流行に対する位置づけが変容していることを明らかにした。さらに、本研究手法の中核をなすエスノグラフィーや路上観測学の先行研究を概説し、ファッション研究におけるエスノグラフィーのあり方を考察した。加えて、ビジュアル・エスノグラフィーの具体例を挙げ、方法的検討を行った。

ストリートファッションの史的研究

洋装の着用がひろく一般化した戦後から現在までの約60年間の、ファッションと社会の変容、ファッションに大きな影響を及ぼすと考えられるメディア、ファッション産業のシステム、ファッション・ストリートの変容について、文献資料および定点観測に基づくフィールドワークから整理を行なった。ファッション、メディア、産業、ストリートの変容を時系列でたどり、ファッション生成の構成要因や流行の伝播の仕方や範囲がどのように変化したかを考察することで、ファッションの概念変化の痕跡を明らかにした。

ポスト・ファッションの存在可能性の検討

ポスト・ファッション化がみられる2000年代の状況整理、ファッションとストリートの関係の変容、文脈無関連化するファッションを考察し、「クールジャパン」の対象であるストリートファッションの背景には、従来のファッション文脈との無関連性にあることを指摘し、ファッション・システムが自己矛盾を抱えつつあるなか、不特定多数が同時に享受するものであった流行が機能不全を起こし始めている現状を示唆し、ファッションの変容について新たな知見を得た。

(2) ファッションの呈示媒体としてのコレクションの変容に関する研究

ファッションにおけるコレクションの誕生から現在までの変遷をたどり、ファッションないしは、ファッションを享受する人々にいかなる影響を与えてきたか、その軌跡を考察した。コレクションの規模や対象を概観すると、19世紀から20世紀前半までの「限られた人々を対象とした小規模なコレクション」から、20世紀半ば以降の「プロを対象とした大規模なコレクション」への変化。さらには、20世紀後半の「一般を対象とした小規模なコレクション」の登場、やがて東京ガールズコレクションにみられる、21世紀に入ってから「一般を対象とした大規模なコレクション」、そしてストリートファッションなどの等身大の人々の装いにみられるような、「対象となるはずの一般の人々のコレクション

化」までの変化を概観した。

プレタポルテの登場から約半世紀を迎えた現在、東京ガールズコレクションのようなこれまでとは異なるアプローチによるショーが求められるようになったのは上記の段階を経たからであり、コレクションで呈示される各ブランドのファッションの新規性とは異なる、コレクションというシステムそのものの刷新可能性について言及した。

(3) ストリートファッションにおける文脈無関連性の実証研究

ストリートファッションの定点観測に基づき、得られた写真資料について、被写体が着用していたアイテム、コーディネート、スタイル、色や柄、シルエット等の変化に着目し、新しいファッションの形成や変容を分析した結果、これまで考えられてきた流行の流れや、あるアイテムが持っていた規範や意味付けに変化が生じており、ファッションにおけるコンテキストが変容していることを以下①～④の4つの観点から具体的に考察した。

ロリータ・ファッションの変容

1980年代にルーツのあるロリータ・ファッションに関して、どのような形で登場し、現在までにどのように変容しているのかを整理した。分析にあたっては、ストリートファッションの写真資料や『オリーブ』をはじめとするファッション雑誌の分析により視覚的な検証を行なった。1980年代の前期ロリータを「ロリータ第一期」、1990年代のロリータ全盛期を「ロリータ第二期」、2000年代の多様化するロリータを「ロリータ第三期」に分けて考察を進めた。その結果、ロマンティック・ファッションはロリータ・ファッションと共通点が多く、1980年代に萌芽があるといわれるロリータ・ファッションのルーツは、ロマンティック・ファッションにあることが分かった。また、現在のロリータ・ファッションの存在は、90年代のストリートファッションの隆盛を出自とし、2000年代以降の流行サイクル激化への警鐘としても捉えることができる結論づけた。

デニムの変遷にみる文脈無関連性

ファッションにおけるデニムの登場から現在までを、おもに日本のストリートファッションの観点から考察し、デニムの意味内容がどのように変化してきたかを明らかにした。デニムのファッションにおいては、反抗の証、意味の反転、大衆化などの転向があり、現在はほぼ出尽くした状況を呈したことを指摘し、これはファッションにとって究極の、さらに従前のシステムにとっては命取りとなる新しさが、デニムをめぐる明確に立ち現れていることを究明した。

ストリートファッションの枠組み超越性

ストリートファッションの変遷を概観した上で、1990年代以降に広まりをみせているストリートファッションに関する写真を軸とした作品の代表的なものを紹介し、オルタ

ナティブなファッション・コンテンツが果たしている役割について考察を行った。ここで、1. ストリートファッション自らが、アンチ・ファッションという自らの性質を脱ぎ捨てつつ、これまでのファッションの枠組みを超えた、オルタナティブとしての役割を担っていること、2. 戦後長きにわたって、欧米を参照してきた日本のファッションが、逆にストリートファッションのレベルで欧米から注目を集める存在と成り得たこと、3. ファッションの主導権を握っていたコレクションを頂点とするヒエラルキーとは異なるストリートファッションから、逆に新しい着こなしが生まれ、これが参照されるようになっていくことなどの、興味深い逆転現象を指摘した。

スポーツスタイルにおける流行出現の変容

原宿で観察された2012年から2015年までの4年間の写真のなかから、スポーツスタイルの被写体868点を抽出し、アイテムの割合を求め、季節変動要因とトレンド要因の二つの視点で考察を行った。明らかな季節変動の影響が観察されたほか、トレンド要因の観点からみると、トップスやボトムにおけるゆるやかなシルエット変動はみられたものの、色柄出現の減少、モノトーンの無地アイテムの増加など、全体的にシンプルなスタイル傾向が伺えた。このことは、流行の加速化からの一定の距離を示すものであり、若年男性のファッション傾向の一端を数量的に把握することができた。

(4) 日本のファッションの海外発信性

上記、(1)～(3)の検討に重点をおいたために、海外発信性については、研究期間中には十分な検討ができなかった。しかしながら、戦後の日本のファッションを形成してきたアメリカの(ファッションの)影響について、考察を行った。戦後から現在までを4つの時期(戦後から1950年代、1960年代-1970年代、1980年代、1990年代-2000年代)に区切り、整理・検証を試みた。これらの結果から、第二次大戦後、洋装化を受け入れた日本が、高度経済成長の波に乗り、既製服産業を発展させ、豊かな日本を実現するに至った。やがて、1980年代、西洋服の既成概念を超えた作品を提案した日本のデザイナーの仕事を通じ、モード規範を越えたモードが最先端となる逆説が起こりえた。そして1990年代以降、ストリートファッションが、新たなファッションの発信源として注目を集め、影響を及ぼしている。こうした過程において、ファッション・システムから逸脱するという、新たなファッションにおける画期が訪れ、「アメリカらしいファッション」や「日本らしいファッション」という輪郭は見えにくいものとなったとし、このことが、逆説的に、日本のファッションの特異性を現していると指摘した。

(5) 日本のストリートファッションのビジュアル・ヒストリーの研究

1950年代から2010年代までの日本のストリートファッションについて、スナップ写真400点を抽出し、時代背景、流行したアイテムやスタイル、コーディネート、小物やヘアメイクについてまとめた。これらの成果は、研究期間内での刊行はできなかったが、「東京ファッションクロニクル」として、2016年8月に出版予定である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計9件)

渡辺明日香・八幡茉莉子、日本のストリートファッションにおけるデニムの変遷、共立女子短期大学生活科学科紀要、査読無、59巻、2016、61-77
<http://ci.nii.ac.jp/naid/120005744988>

八幡茉莉子・渡辺明日香、男性スポーツファッションにおける変動について-2012年から2015年の男性ストリートファッションに着目して-、共立女子短期大学生活科学科紀要、査読無、59巻、2016、79-92
<http://ci.nii.ac.jp/naid/120005744989>

渡辺明日香、ファッションのエスノグラフィー-写真が伝える装いの実像-、共立女子短期大学生活科学科紀要、査読無、58巻、2015、29-55
<http://ci.nii.ac.jp/naid/120005598461>

渡辺明日香、日本のファッションにみるアメリカの影響-洋装化、ジャパン・ファッションの影響、ストリートファッションの現在-、共立女子短期大学生活科学科紀要、査読無、57巻、2014、23-36
<http://ci.nii.ac.jp/naid/120005415724>

渡辺明日香、<ファッション>のオルタナティブとしてのストリートファッション、コンテンツ文化史研究、査読有、8巻、2013、88-101
<http://ci.nii.ac.jp/naid/40019810404>

八幡茉莉子・渡辺明日香、ロリータ・ファッションのルーツ：1980年代以降のストリートファッションに着目して、共立女子短期大学生活科学科紀要、査読無、56巻、2013、11-31
<http://ci.nii.ac.jp/naid/120005284521>

渡辺明日香、コレクション・システムの変容 ポワレからTGCまで、共立女子大学・短期大学総合文化研究所紀要、査読無、18巻、3-1、2012、72-88
<http://ci.nii.ac.jp/naid/40019702508>

渡辺明日香、ファッションの概念変化とポスト・ファッションの可能性-ストリートファッションに関する実証研究を事例として-、首都大学東京大学院人文科学研究科社会学教室学位論文、査読有、2012、357

<http://ci.nii.ac.jp/naid/120005467424>

渡辺明日香、TOKYO ストリートファッション~若者たちの装いのゆくえ~、同志社女子大学生生活科学、査読無、45巻、2011、111-121

DOI: 10.15020/00001353

[学会発表](計8件)

渡辺明日香、ストリートファッションにみるファッション・ヘア・メイクの変遷、日本色彩学会コスメティクスと肌・顔研究会、2016年4月22日、産業技術総合研究所・臨海副都心センター(東京都江東区)

古川貴雄、三浦爾子、渡辺明日香、宮武恵子、ラグジュアリーブランドにおけるファッショントレンド分析-SD分析と因子分析に基づくトレンドの可視化-、第10回感性工学会春季大会、2015年3月29日、京都女子大学(京都府京都市)

渡辺明日香、ストリートファッションにみる日本の装い、共立女子大学・短期大学公開講座、2014年10月25日、共立女子大学八王子キャンパス(東京都八王子市)

渡辺明日香、Construction of Database for Japanese Street-fashion、第26回国際服飾学会学術大会、2014年8月20-21日、学習院女子大学(東京都新宿区)

渡辺明日香、ストリートファッションにみる若者の装い-その変容と背景、日本家庭科教育学会関東地区2014年度大会、2014年7月26日、共立女子大学(東京都千代田区)

渡辺明日香、日本のファッションにみるアメリカの影響、立教大学アメリカ研究所第5回アメリカの社会とポピュラーカルチャー研究会、2012年7月28日、立教大学(東京都豊島区)

渡辺明日香、<ファッション>のオルタナティブとしてのストリートファッション、コンテンツ文化史学会2011年第2回例会、2011年11月12日、文化学園遠藤記念館(東京都渋谷区)

渡辺明日香、TOKYO ストリートファッション~若者たちの装いのゆくえ~、同志社女子大学第45回生活科学大会講演会

イースト・フォーラム大会、2011年7月2日、同志社女子大学（京都府京田辺市）

〔図書〕（計4件）

渡辺明日香、東京ファッションクロニクル、青幻舎、2016、200（2016年8月刊行予定）

日本家政学会編、大塚美智子編集代表、石原久代、依田素美、猪俣美栄子、大矢勝、川上梅、黒川祐子、小柴朋子、牛腸ヒロミ、後藤純子、佐々井啓、田中淑江、中村仁、平井郁子、藤田雅夫、布施谷節子、山村明子、丸田直美、渡辺明日香ほか104名、丸善出版、衣服の百科事典、2015、623

城一夫、渡辺明日香、渡辺直樹、青幻舎、新装改訂版 日本のファッション 明治・大正・昭和・平成、2014、351

渡辺直樹・渡辺明日香、太郎次郎社エディタス、2012、昭和のファッション おしゃれぬり絵、64

〔産業財産権〕

出願状況（計0件）

取得状況（計0件）

〔その他〕

ホームページ等 なし

6. 研究組織

(1) 研究代表者

渡辺 明日香（WATANABE, Asuka）
共立女子短期大学・生活科学科・教授
研究者番号：60352746

(2) 研究分担者 なし

(3) 連携研究者 なし